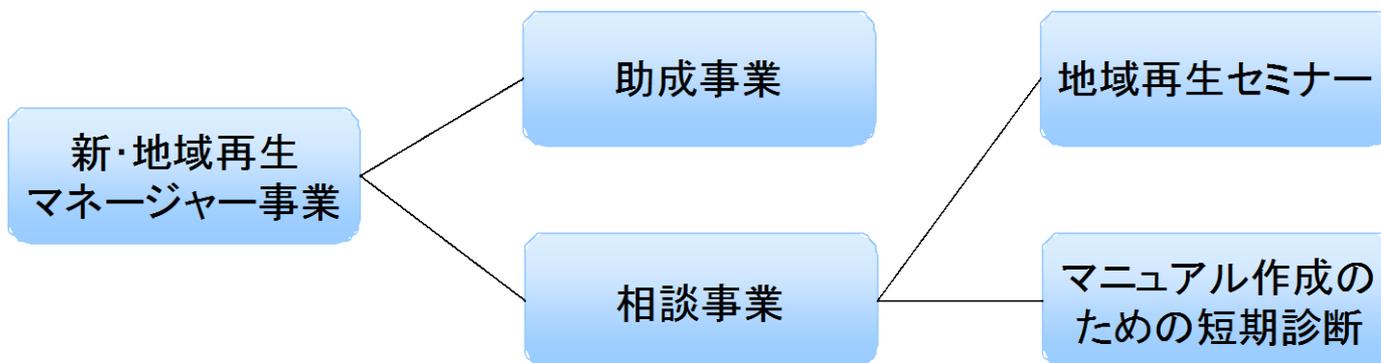


平成24年度
新・地域再生マネージャー事業報告書
【概要】

平成24年度 新・地域再生マネージャー事業報告書【概要】

事業の構成



助成事業の概要

助成対象者	市区町村
助成上限額	1事業あたり700万円 以内
助成率	助成対象経費の2/3以内
助成対象経費	・専門的人材の派遣に関する経費(人件費・旅費) ・その他財団が必要と認めた経費
助成対象期間	・平成24年4月1日～平成25年2月21日
公募期間	・平成24年2月21日～平成24年3月23日
留意事項	(1) 都道府県を經由して申請すること (2) 期中の概算払いは行わないものであること

相談事業の概要

- (1) 外部人材活用マニュアル作成のための調査(短期診断)
調査を行う地域再生マネージャー等の派遣に要する費用(旅費相当額及び謝金)は、財団が負担。(会場費用や現地案内に係る費用は市町村の負担)
- (2) 地域再生に関する情報発信・共有のための会議の開催(地域再生セミナー)
会議講師等の派遣に要する経費(旅費相当額及び謝金)は財団が全額負担。
(ふるさと財団から直接支払い)

助成事業の概要

	地域名	事業名	事業目的・概要
1	北海道 中標津町	エリアラッピング型・中標津町観光ブランド形成の可能性検討調査事業	圏域観光の持続発展的な産業構造の確立を目指し、町内に事務局を置く観光協会を営利組織として独立させ、観光産業による新たな経済循環を創出する拠点都市として、人口減少社会における圏域自立に向けた可能性を探る。行政境界の制限にとらわれない「エリアのパッケージ化」によるブランド形成に向けて、行政・事業者・団体・学者・事業者などと連携し、観光振興による活性化可能性を検証する。
2	青森県 大鰐町	大鰐温泉もやしブランド化推進事業	関係機関と連携し、350年の伝統ある「大鰐温泉もやし」の価値向上、後継者育成、生産体制確立、販路拡大により、雇用創出を通じて、町を活性化し、「自立して稼げる地域」とする。また、特産品の核として「大鰐温泉もやし」ブランドを強固にし、そこから大鰐ブランドを確立する。
3	青森県 佐井村	佐井村特産品開発支援事業～ヒトとモノが共創した特産品で村をPR～	5つのプロジェクトチームのうち「農業振興」と「産直市」の2チームを通じて地域外販売体制を構築し、「佐井村」を域外に浸透させるために、域外ニーズに対応できる人材発掘・育成、付加価値のある商品製造・販売を行う。「佐井」ブランドのきっかけを作り、地域内で継続して製造、地域外への販売体制を構築し、域内雇用、域内経済活性化交流人口の増加にも寄与する。
4	岩手県 金ケ崎町	金ケ崎町特産品開発・ブランド化プロジェクト事業	町内食料自給率285%を誇る豊富な農畜産物を活かした「金ケ崎ブランド」の構築を推進する。人材育成・雇用の創出、農業産出額・農業所得の向上などにより金ケ崎町のイメージアップ、地域イメージ・地域資源を基本とした新しい産業を育成する。
5	宮城県 涌谷町	生薬の加工・商品化による健康まちづくり	医療に過度に依存しない包括的なまちづくりを実現する。住民参加による生薬の加工・商品化と産業活性化と健康問題に対する住民の啓発を図り、健康まちづくりに対する行政・住民の意識向上を促す。
6	秋田県 大館市	大館発！元気プロジェクト	「比内地鶏」や「きりたんぼ」をはじめとした、大館の地域資源を磨き上げ、大館産品の価値向上と情報発信と体験型ツーリズムによる交流人口の拡大を図る「地域おこし協力隊」の定住を目指す。
7	富山県 立山町	清流と雪の大谷の立山・地域ブランド構築事業	まちづくり会社が旅行会社免許を取得し、ワンストップサービスを行えるように体制を整備し、平坦地観光を推進する。また、ブランド認定品の販売力強化やフェイスブックを活用した情報発信とEC事業を推進する。
8	愛知県 新城市	奥三河連携木の駅プロジェクト～森林と地域通貨を利用した地域再生プロジェクト～	本事業では3つの木の駅間の広域連携で、山村活性化の在り方を模索し、全国初の木の駅広域連携モデルを構築することを目的とする。各地の「木の駅」会議へ他の市町村の会議メンバーが参加することで、現場感を掴んでもらい、自らの場所での会議へとフィードバックすることができるようにする。また、次年度以降の木材の売り先が気になります、第2回の社会実験と同時期に「材材とエネルギー利用」に関する合同研修会を実施する。
9	愛媛県 今治市	しまなみ海道人材育成・活性化支援事業	「農産物の6次産業化」、「シクロツーリズム」、「畑地・林地再生」の3つの課題に取り組む。農産物の6次産業化については、「発酵」、「乾燥」、「冷凍」技術の習得及び店頭直売の社会実験を行い、販路拡大を目指す。シクロツーリズムについては、サイクリストニーズ把握を行い、滞留活動モデル確立研究を行うため、石窯を建設し、シクロカフェのあり方を検討する。畑地・林地再生については、耕作放棄地の再生や林地の活用方法などを検討する。
10	熊本県 阿蘇市	阿蘇市観光戦略づくり事業	「住んでよし、訪れてよしの観光地づくり」を基本テーマとする。マネージャーによるセミナーなどを通して、地域全体のおもてなしの向上を図る。都会の大学生をインターンシップで受け入れ、若年層の阿蘇旅行ニーズの掘り起こし、若者にも選ばれる観光地を目指し、フェイスブックなどを活用し、阿蘇ファンの増加とイメージ向上を図る。昨年度までに開発した地域の食材を活用したオリジナリティ溢れる料理・スイーツをさらに磨き上げるとともに、その他の隠れた食の魅力を発掘する。
11	熊本県 上天草市	国際的6次産業創出・観光再生・地域人材育成事業プロジェクト	ナマコ産業とオリーブ産業での国際的6次産業創出による産業活性化と里海里山を活かした「地中海イメージ」創出による観光再生を図る。若手の人材育成による持続可能な組織を作り地域活性化を目指す。
12	宮崎県 綾町	守りながら知ってもらおう・来てもらおう「倉輪地区(集落)」の挑戦～わくわく・くらわ隠れ里プロジェクト～	新たな綾町ブランドを担う地区資源の活用を22戸の倉輪地区(集落)で行う。地元の実施体制を構築して地元住民などとワークショップを実施し、地域資源の調査で6次産業プログラムの検討を行う。地域資源を活用した都市と農村の交流づくりと交流によってもたらす地区住民の生きがいづくり、内部循環システムを構築して倉輪地区モデル事業とする。
13	鹿児島県 薩摩川内市	薩摩川内市ぼっちゃん計画プロジェクト	甑島などの地域資源を活かした着地型旅行商品や物産商品を開発し、企業内マルシェを実施し、販路拡大を図る。また、若年層や女性層の消費者ニーズを把握するために大学生インターンシップの受け入れを行うとともに、薩摩川内シティセールスに関する情報発信を強化する。

助成事業採択団体における主な取り組み

- ✓全国で13箇所の採択団体に対する助成事業を実施。
- ✓「ものづくり」、「観光関連」、「仕組みづくり」などさまざまな分野の取り組み
- ✓体制整備など持続可能性を志向するもの、商品開発などビジネス志向するものなど様々な方向性を持った事業を支援、多くの成果をあげた。

01. 北海道中標津町 「エリアラッピング型・中標津町観光ブランド形成の可能性検討調査事業」

- ・観光モニターツアー及びアンケート調査を実施
観光資源価値の実態を把握
→生態系テキストブック、ドライブ&フットパスマップ作成
- ・圏域市町村向けの事業報告会を開催
→圏域全体での合意形成
- ・観光モデルルートの開発



02. 青森県大鰐町「大鰐温泉もやしブランド化推進事業」

- ・大鰐温泉もやしを活用した新商品開発
→キムチ、ナムルや新メニューの開発
- ・首都圏への販路開拓(飲食店や高級百貨店)
→新規取引先25件の開拓
- ・生産者/町/販売主体などが一体となった
検討体制確立
→大鰐温泉もやしブランド化推進会議



03. 青森県佐井村 「佐井村特産品開発支援事業～ヒトとモノが共創した特産品で村をPR～」

- ・人材育成会議などの実施
→地域産品の価値の再評価
付加価値をつけること、販路を意識した
特産品開発などの意識付け
- ・特産品の開発とテストマーケティング
→5品の試作品(一部、百貨店の検査中)



04. 岩手県金ケ崎町 「金ケ崎町特産品開発・ブランド化プロジェクト事業」

- ・町内農産物を活用した特産品開発とPR
→アスパラ粉を使った「アスパラ焼(仮称)」
の開発。(気軽に食べられるもの)
→イメージキャラクターとタイアップしたPR
- ・団体などによる独自の6次産業化
→菓子や惣菜、漬物などの販売に取り組む



助成事業採択団体における主な取り組み

05. 宮城県涌谷町 「生薬の加工・商品化による健康まちづくり」

- ・「生薬」などによる包括的な健康増進に取り組む
- ・一般町民向けの生薬・漢方に関する啓発講座実施
 - 毎回、70-80名が参加
 - 説明会などを経て「生薬まちづくりの会」が発足
- ・生薬の栽培・加工では、
 - 甘草入りの蒸しパンやキムチ
 - 400戸をこえる家庭での生薬栽培などもはじまる



06. 秋田県大館市 「大館発！元気プロジェクト」

- ・地元の素材を活用したメニュー開発
 - 新メニュー25品とレシピ集
 - 市内飲食店で一部メニュー提供中
- ・地域の女性の力を引き出した
 - 「大館エグスベシヤ」を組織化
- ・体験交流などの促進
 - 13軒の農家民宿開業
 - 3回のモニターツアー実施



07. 富山県立山町 「清流と雪の大谷の立山・地域ブランド構築事業」

- ・まちづくり会社の旅行業免許取得と平坦地観光推進
 - 陶芸体験モニターツアーの実施
 - 修学旅行7校1,200名の受け入れが決定
- ・ブランド認定品の販売力強化、フェイスブックなどを利用した情報発信
 - 追加で2品目のブランドを認定
 - FB販売サイトで14品目27商品取り扱い中



08. 愛知県新城市 「奥三河連携木の駅プロジェクト～森林と地域通貨を利用した地域再生プロジェクト～」

- ・木の駅の立ち上げと広域展開
 - 2市町での木の駅立ち上げと社会実験の実施
 - 広域連携に向けた検討実施
- ・森林エネルギー利用検討
 - 地域の温泉への薪ボイラ導入について事業可能性を検討



09. 愛媛県今治市 「しまなみ海道人材育成・活性化支援事業」

- ・「地域おこし協力隊」の活動を促進し、地域への定着を図るために「しまなみカレッジ」を開設。ガイダンス、4活動分野でのメンバーによる社会実験を支援
 - 6次産業化では店頭販売などの社会実験
 - サイクルツーリズムでは美術館での期間限定カフェ
 - 畑地・林地再生では搾汁施設設立の検討開始
 - ダンスでのイベントは継続要望多数



10. 熊本県上天草市

「国際的6次産業創出・観光再生・地域人材育成事業プロジェクト」

- ・ナマコやオリーブなどの新産業創出
 - 地中海化による観光再生と人づくり
 - ナマコ産業創出への漁協など巻き込み
 - 稚ナマコの育成開始
 - オリーブ300本の植樹
 - 事業分野に応じた活動団体の組成



助成事業採択団体における主な取り組み

11. 熊本県阿蘇市「阿蘇市観光戦略づくり事業」

- ・おもてなし向上、食の磨き上げなどを通した観光都市機能強化を図る。
→宿泊施設従業員、市民を対象に「おもてなしセミナー」を実施、意識向上を図る。
阿蘇おもてなしHANDBOOKを作成
- ・大学生インターシップの受け入れ実施
- ・食の磨き上げ実施
→阿蘇deスイーツめぐりは地元で継続して取り組む



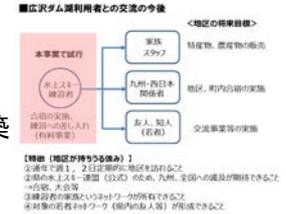
おもてなしセミナー



あか牛の提供例

12. 宮崎県綾町「守りながら知ってもらおう・来てもらおう「倉輪地区(集落)」の挑戦～わくわく・くらわ隠れ里プロジェクト～」

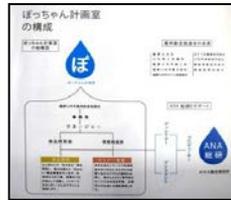
- ・ダム湖利用者向け交流モデルの構築
→ダム湖利用者向けにイベントとして昼食提供を実施
- ・ユネスコエコパークに対応した交流モデルの構築
→地域資源の再確認、マップ作成
→集落をフィールドとした活動への集落参加への方向転換を提示



ダム湖利用者向け交流事業の将来展開

13. 鹿児島県薩摩川内市「薩摩川内市ぼっちゃん計画プロジェクト」

- ・新たな着地形旅行商品の開発、販路拡大
→ANAの広告媒体などを利用した広報発信
3コースのまちあるき観光ルート開発
- ・地域資源を活用した物産品の開発
→甕島産のサツマイモやキビナゴを使った新商品
- ・大学インターシップの受け入れ
→若者、よそ者の視点からの観光資源の洗い出し



相談事業の取り組み 地域再生セミナー

- ✓兵庫県、栃木県、大分県の3県で計3回の地域再生セミナーを実施。
- ✓県や市町村の担当者や民間事業者などが多数、参加。
- ✓8割を超える参加者がセミナー内容に「満足」と回答。
- ✓各回のテーマ・講師・参加者などは以下のとおり。

	開催場所	テーマ	講演者・事例発表者・パネリスト等	参加者
1	兵庫県朝来市 2012.8.17	誇りが持てる地域となるために	総務省 自治財政局長 椎川 忍氏 イング総合計画(株) 代表取締役 斉藤 俊幸氏 (有)スタチオ・カタリスト 代表取締役 松原 永季氏 東近江市 企画部緑の分権改革課主幹 山口 美知子氏	168名
2	栃木県宇都宮市 2012.9.18	地域コミュニティを活かした 集落再生	明治大学 農学部教授 小田切 徳美氏 NPO法人地域再生機構～木の駅プロジェクト～ 丹羽健司氏 全日本空輸(株) 元客室乗務員 小林 詳子氏	108名
3	大分県別府市 2012.10.10	日本一のおんせん県 おおいた 味力も満載	(株)ジェイティービー 旅行事業本部観光戦略室観光立国マネージャー 山下真輝氏 カルチャーアットフォーシーズンズ 代表取締役 中島淳氏 大分県 観光・地域局局長 森竹嗣夫氏 (株)四万十ドラマ 代表取締役社長 畦地 履正氏 特定非営利活動法人 竹田市観光ツーリズム協会 事務局長 工藤 隆浩氏 つるみ観光(株)ホテル白菊 代表取締役社長 西田 陽一氏	146名



兵庫県セミナー
斉藤マネージャー講演



栃木県セミナー
小林マネージャー講演



大分県セミナー
中島マネージャー講演

相談事業の取り組み

【外部人材活用マニュアル(実施期)】

円滑な外部人材活用のための手順をチェックリスト形式で作成。今年度は、「初めて外部人材を迎えるにあたって留意すべき事項を中心に項目を設定。

No	項目	内容	関連資料	チェック
ステップ1 外部人材の活用に関する検証				
1-1	問題意識の検証	地域が抱えている課題の本質が何か明確にする。		
1-2	適用可否の検証	実施しようとしている施策が、外部人材の活用に適しているかどうか検証する。		
1-3	事例の検証	他の地域における類似の実践事例を参考とし、成果や必要な期間や関連施策等を検証する。		
1-4	期間の検証	外部人材を受け入れる期間はどれくらい必要か。可能であれば予算措置も含めた検討を行う。 (各種補助事業等を活用する場合、「ステップ5申請手続き」を参照)。		
1-5	人材の検証	施策に合致する外部人材を検討する。 (複数の外部人材をチームで受け入れる検討も可)		
ステップ2 外部人材の受入準備、日程調整等				
2-1	依頼内容の整理	外部人材に依頼する内容を整理し、結果報告の方法を明確にしておく。		
2-2	外部人材への連絡	外部人材の連絡先を入手し、連絡を取る。		
2-3	日程調整 ①	外部人材の受入日を決定する。	-	
2-4	日程調整 ②	外部人材訪問時のスケジュールを関係者・調査(視察)先と調整の上、確定する。	-	
2-5	庁内の受入体制の調整	外部人材を迎え、事業を実施する上で必要な受入体制を明確にする。		
2-6	情報共有	庁内関係者との問題意識・課題、事業目的の共有化を行う。		
2-7	★地域体制の把握	地域づくりを担う人材・キーマンの把握		
2-8	資料送付	事前に外部人材に対し、基本的な資料を送付する。		
2-9	視察準備	市町村内の移動手段、会議室等の手配、経費の支出準備を行う。	-	
2-10	事前周知	外部人材の受入の趣旨目的等について、関係者に周知する。		
2-11	役割分担	外部人材受入時に必要な資料、役割分担の準備をする。		

※★は長期で外部人材を活用する際に特に重要な項目を意味する。

No	項目	内容	関連資料	チェック
ステップ3 受入時				
3-1	最終調整	前日までに外部人材に最終的な日程の確認等を行う。	-	
3-2	送迎	待ち合わせ場所を迎える。		
3-3	案内	面談、会議への案内や視察先の案内等を行う。	-	
3-4	報告、日程調整	報告を受け、次回の日程を調整する。		
3-5	送迎	見送る		

3-6	★取組姿勢	外部人材との一体的事業遂行		
-----	-------	---------------	--	--

※★は長期で外部人材を活用する際に特に重要な項目を意味する。

No	項目	内容	関連資料	チェック
ステップ4 外部人材受入後				
4-1	記録作成、周知	外部人材訪問時の記録を作成し、関係者に周知する。	-	
4-2	意見等の聴取	関係者からの意見、今後の意向を聴取する。		
4-3	連絡	外部人材との連絡を取る。		
4-4	今後の検討	関係部署、関係者を交え、今後の外部人材活用について検討を行う。		
4-5	次回の検討	次回外部人材受入について検討を行う。		

各項目の解説ポイント、助成申請等を行う場合の手順「ステップ5」まで明記したマニュアル案については、以下ホームページに掲載

<http://www.furusato-zaidan.or.jp/chiiki/>

相談事業の取り組み 短期診断

栃木県那珂川町 『木の駅の導入検討』

- ・木の駅導入の那珂川町にとっての意義効果について提言
- ・導入にあたっての実行委員会、住民主導での運営の必要性、スケジュールなどを提言
- ・バイオマス発電などとの組み合わせの可能性



大分県津久見市 『新たな観光デザインへ向けた取り組み』

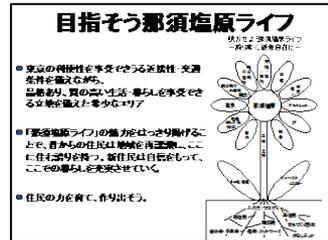
- ・観光客の意欲を高めるパッケージデザインや売り場づくりの必要性
- ・まぐろ料理ブランド化の必要性と方策
- ・プロモーション活動の方法、考え方
- ・地区での将来構想を持つことの必要性

津久見地域の課題と対応方向



栃木県那須塩原市 『那須塩原の新しいまちづくり』

- ・「観光でまちづくり」をするために必要な「人づくり」と「体制づくり」
- ・近接性・利便性などの「ファスト」と豊かな自然、歴史・生活などの「スロー」の双方が享受できる地域の暮らしぶりを発信していくことが重要。



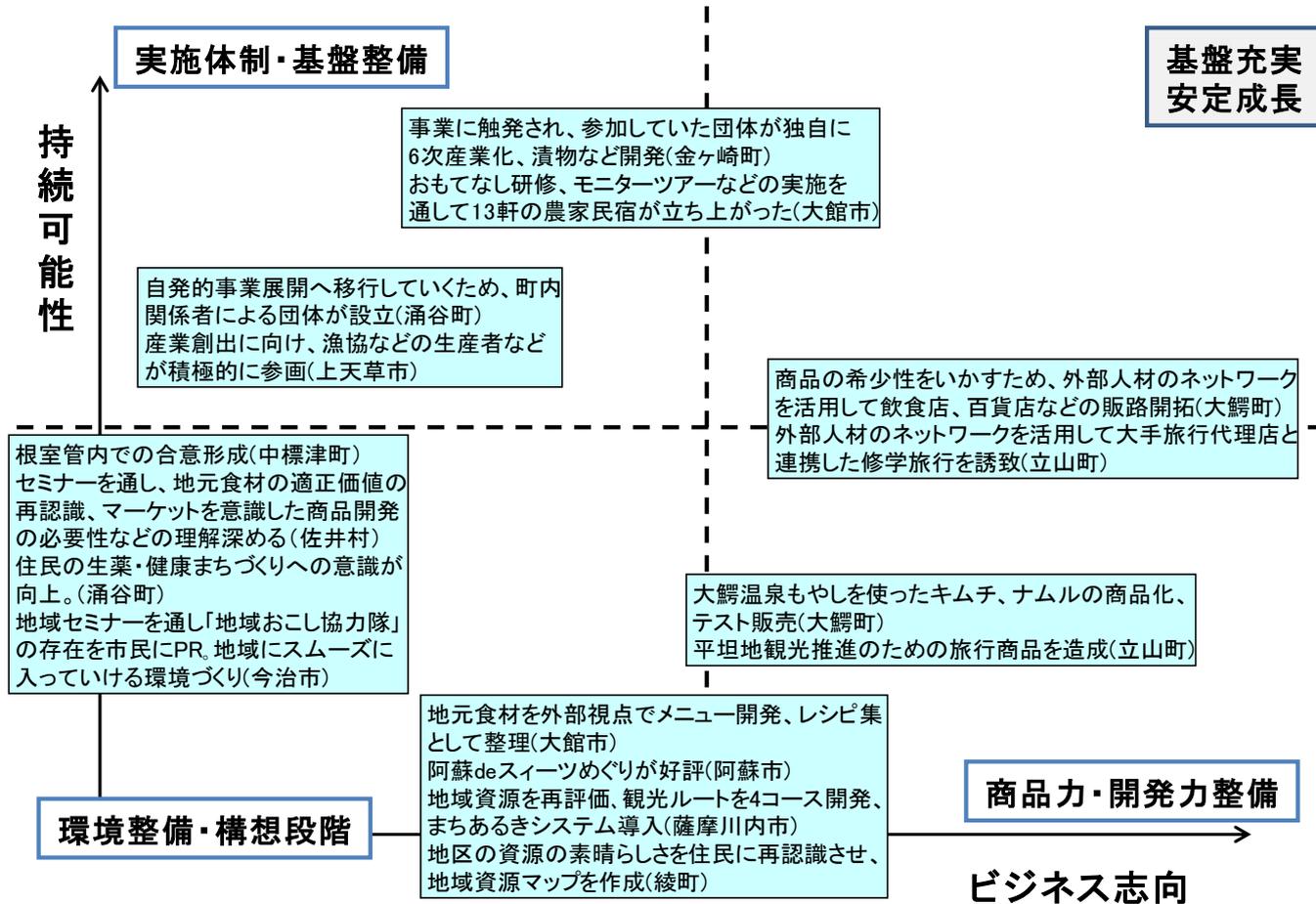
大分県佐伯市 『「食」を切り口とした観光・地域づくり』

- ・宮崎圏域及び日帰り客の誘客に重点
- ・地域の食のストーリーづくりとPR
- ・観光客目線に立って、個別の取り組みを市全体の施策として再構築していくこと
- ・事業を効果的に動かすための外部人材活用などの支援メニュー



本事業における取り組みと成果

- ・13採択事業においては、マネージャーが専門性を活用して地域が目標としている 成果を達成するために 様々な工夫を行い、以下のような成果を達成



本事業における取り組みと成果

- 外部専門家活用の有効性を認識、導入検討のきっかけづくりとなったセミナー
- 導入期マニュアルの検証を兼ねた短期診断を通して実施期マニュアル(案)を作成
- 外部専門家の短期診断を受けた市町村が計画作りの予算化、外部専門家導入検討へのアクション(H25年度スタートアップ事業、助成事業へ応募)
- 行政や地域住民の「人材育成面」あるいは「専門家アレンジメント」「販路拡大」、「他事業との連携」など地域再生マネージャー等の専門能力が効果的に発揮された
- 地域再生マネージャー等を受け入れるための留意点など以下のとおり。

準備段階	<ul style="list-style-type: none">・地域ビジョン、論点の明確化、問題点の共有などをはかしておくこと。(テーマ・課題の絞り込み)・地域との接点を持つておくこと。(地域のキーマン・団体とのネットワーク)・事業主体との問題意識共有や意識づけなど受入体制の土壌づくり。・行政内部、関係各所との連携準備、事業推進体制の準備
事業推進段階	<ul style="list-style-type: none">・行政内部(縦/横)での目標などの共有(意識統一)(他部署を巻き込む)。・マネージャーとの二人三脚での事業実施。(自治体(担当者)との熱い思いの共有)・地域/行政/マネージャー間の「報」「連」「相」